【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和２年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立諸富北小学校

1　前年度 評価結果の概要	小中連携による学力向上推進地域指定事業の定を受け全職員で学力向上に取り組んだ。結果としては多くの課題が残るが、取り組みとしては、保護者と協力しながら三位一体で進めることができた点は次年度につながる。 ・人権意識・心の教育では、組織的にいじめや人権教育に取り組んだことが効果的であった。いじめについては、言葉の使い方やＳＮＳの使い方についての指導など保護者との協力が一層重要となる。特別支援教育やＵＤの取組を図ること、一人ひとりの児童の心を受けとめる相談体制の充実を図る必要がある。 ・開かれた学校づくりは、地域とつながる教育活動を充実させるために町内3校の協働やＰＴＡとの連携を構築してきたことで、意識改革が図られている。働き方改革の法案にのっとった取組は、学校の自助努力ではめいっぱいであり、多面的な立場から取り組む必要がある。 ・生活習慣・食習慣は本校の課題でもある。保護者への啓発を一層進める。究指定を受け全職員で学力向上に取り組んだ。結果としては多くの課題が残るが、取り組みとしては、保護者と協力しながら三位一体で進めることができた点は次年度につながる。 ・人権意識・心の教育では、組織的にいじめや人権教育に取り組んだことが効果的であった。いじめについては、言葉の使い方やＳＮＳへの指導など保護者との協力が一層重要となる。特別支援教育やＵＤへの取組を図ること、一人ひとりの児童の心を受けとめる相談体制の充実を図る必要がある。
2　学校教育目標	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成 ○子どもが生き生きと学習し、確かな学力を 身に付ける学校　○一人一人を大切にし、子どもが輝く学校　○規律正しく、家庭・地域から信頼される学校
3　本年度の重点目標	①学力向上に向け、国語科の授業研究を中心に、表現力や思考力（活用力）を高めていく。さらに、スキルタイムで基礎学力を着けていく。 ②すべての教育活動を通じて、いじめや差別の防止に努める。 ③一人一人の特性に応じた支援を行い、自立と社会参加の素地を作る特別支援教育の推進を図る。 ④家庭や地域と情報を共有し、PTAと連携して教育活動を強化する。 ⑤基本的生活習慣や生活規律を重視し、情報発信を通して家庭への啓発に努める。

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師100%	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・学校全体で取り組むことを共通理解し、それに向けて個人で目標を立てて行っている。折を見て追加修正を行うようにしている。	A	・学力向上対策評価シートのマイプランを共有し、普段の授業等で意識しながら取り組むことができた。成果指標の達成率100%達成できた。	A	・先生同士でのマイプラン共有等は、適宜支え合うことやよりよい指導法を探ることもできるものです。柔軟な意思の疎通は、児童にも好影響である。	松永・儀間
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業及び習熟ための実践	○学習に関するアンケートにおいて「学習した内容がわかった、できるようになった」と回答した児童90%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3　Vol.2」を踏まえ、授業に「書く活動」「話し合う活動」を設定する。 ・学習内容の習熟及び活用を計画的に設定し、課題や学習形態、評価の工夫を行う。	B	・新学習指導要領の観点を生かした授業づくり、単元構成を意識して行っている。その際に「授業づくりのステップ1・2・3」を活用している。	A	・「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業に取り組むことができた。研究授業や講師の指導もあり、児童が主体的に学ぶ学習活動を計画実践できた。児童の学校評価による学習内容の定着についての意識は93%で達成した。	B	・「勉強がわかる」のに、授業中「自分の考えが話せない」児童もいる。今後、ますます求められる「読解力」をつけるためにも「考えを話す」力を引き出す指導が求められる。 ・体験から生まれる完成を育んで欲しい。	松永・儀間
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上 ○心を育てる教育に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者90%以上	・一人一人を大切にする人権教室（年間3回）と「いじめ命を考える日」に人権・いじめ・命に関するアンケート（毎月）を適切に実施する。 ・道徳科の授業づくり、エンカウンターに関する校内研修等の実施	B	・学校評価アンケートにおいて道徳に関する内容について90%以上の児童ができているとの回答があった。今後も毎月のアンケートをもとに児童の心の成長につながる活動を続けていきたい。 ・学校評価アンケートにおいて97%の保護者が道徳教育や人権教育などで心を育てる授業に取り組んでいると回答していた。引き続き信頼される教育活動を行う。	A	・後期学校評価アンケートにおいて道徳に関する内容について90%以上の児童が実践できているとの回答があった。 ・学校評価アンケートにおいて96%の保護者が道徳や人権教育などで心を育てる指導に取り組んでいると回答した。	A	・人権意識を高めるために、いろいろと実践していることが伝わる。小学校時代に見聞きした人権のことがその後のいじめや自殺、引きこもり防止につながる様に毎年、根気よく啓蒙を続けて欲しい。	北島・江口・梶原
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教師100% ○いじめのない学校づくりへの取り組みに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者90%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直し、研修会の実施。 ・子ども支援会議を年間に10回以上、児童面談、三者面談を年間1回以上行う。 ・いじめ・不登校へのきめ細かな対応をチームとして組織的に行う。	B	・学校評価アンケートにおいて100%の職員がいじめの早期発見・早期対応に向け子どもの様子の把握や指導に努めたと回答した。また、96%の保護者が学校はいじめのない学校にするために思いやりや友だちづくりの指導に取り組んでいると回答している。今後さらに、早期発見・早期対応、安心して過ごせる支持的風土づくりに努めていく。 ・不登校、不登校傾向の児童、保護者に対する有効な支援についてチームで模索しながら進めているが、さらに関係機関との連携を強化していく必要がある。	B	・中間評価と同じように、学校評価アンケートにおいて全職員がいじめの早期発見・早期対応に向け子どもの様子の把握や指導に努めたと回答した。また、94%の保護者が学校はいじめのない学校にするために思いやりや友だちづくりの指導に取り組んでいると回答している。継続した指導や保護者との連携が必要だと思われる。 ・不登校、不登校傾向の児童、保護者に対する有効な支援についてチームで模索しながら進めてきた。今後も保護者や関係機関との連携を強化していく必要がある。	A	・心痛める児童をなくすべく、心を砕いて対策を取っているのが伝わります。発見しにくいいじめや本来なら家庭教育の範疇に入るいじめの対応や対策も学校が担わなければならない昨今、きめ細かく取り組まれていて、頭の下がる思いである。 ・子どもの肯定感を高めることは大切に思います。認められ褒められ自己の肯定感も高められると思う。	田代・宮原・徳永
	◎自らのよさや肯定感を高め、目標や夢をもって努力しようとする意欲を高める教育活動の推進	○Q－Uアンケートにおける満足群に属する児童が、1回目より2回目が上回る。 ○「将来の夢や目標」に関するアンケートに肯定的な回答をした6年生が90%以上	・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・良さ見つけカードや良い行動の共有・称賛などに取り組み、児童の自尊感情を高める。 ・自分の将来の夢や希望について考える授業を行う。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・月初めのよさ見つけタイム（ぽかぽかカード）の取り組みは、児童相互のよい行動を見つけ認め言葉で伝える活動が児童の自尊感情を高めることにつながっている。3学期にQUアンケートを実施し1回目の結果と比べることで、学級の様子を把握し、また対策を立てたい。 ・「将来の夢や目標」に関して8割の児童がその実現に向けて努力していると回答している。道徳だけでなく、卒業文集や図工「未来のわたし」の授業などに取り組みながら9割以上を目指したい。	A	・ぽかぽかカードや帰りの会などで、児童相互のよい行動を伝え合い、学級全体で褒めることで児童の自尊感情を高めていった。また、全校集会では挨拶運動への参加や読書量についてなど多方面で活躍した児童を全校で称賛した。 ・「将来の夢や目標」に関して94%の児童がその実現に向けて努力していると回答した。道徳や国語「プロフェッショナルたち」、卒業文集、図工の授業などで取り組んだ成果が表われた。また、卒業式では、全児童が決意表明	A	・児童アンケートの回答「とても」「だいたい」の合計と自己を肯定できる児童数が同じかどうか知りたいと思ったた。もしそうであれば、自己を肯定できない原因をアンケートから探ることもできます。「生まれてきてよかった」「出会えてよかった」と思える幸せを全児童に感じてほしい。 ・夢と目標は少し違うのではないかと思う。努力することとは何か、と感じている。	北島・井上
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	○食育や健康教育への取り組みに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が90%以上 ○ゲームやテレビ、インターネットなど家庭で決めた時間を守れていることに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が75%以上	・学級活動において、「早寝、早起き、朝ごはん」の意識を高め、定期的に実践を振り返り、生活時間と食事のとり方の改善を行う。 ・毎月1日の「ノーテレビデ―・ノーゲーム・ノースマホデー」を定着させ、自主的、計画的に規則正しい生活を送る実践力を高める。	B	・食育・健康教育に関するアンケートで、保護者の肯定的な回答が97.2%と目標値を超えている。引き続き、「早寝・早起き・朝ごはん」の指導に取り組む。 ・ゲームやテレビ等の家庭で決めた時間を守れていることに関するアンケートで、保護者の肯定的な回答が70.8%と目標値には達していない。家庭への啓発と意識の変容への手立ての工夫が必要である。	B	・学級活動や個別指導で「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発を行った。保護者の肯定的な回答が目標値を上回り、達成できた。 ・「ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデー」に関しては、肯定的な回答をした保護者が73%であった。PTAの協力も得て充実した取り組みになるようにしなければならない。	B	・自づアンケートに「あまり」「まったく」がいる限り見逃せないことだと考える。心身が健康に発育するために、そして児童のこの先の人生を考えると、少数でも心配である。どちらも成長のマイナスになりかねない。 ・仲間の中で対人に対する力をつけるそんな教育が現代社会には必要と感じる。行事等で仲間づくりができ、他の者も受け入れられる教育も必要である。	山﨑・鶴田・市丸
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週の定時退勤日の確実な実施に努める。 ・勤務時間の自己目標を設定し、効率的な取り組みを意識的に行う。 ・業務の簡便化と業務が集中しないように分担のマネジメントを行う。	C	・毎週の定時退勤日、勤務時間の効率的な取り組みについては個人差があり、職場全体として勤務時間の上限を守れていない。そのため、タイムマネジメント研修や業務の簡便化のための工夫の紹介などにより、各自の意識を高める実行力を高めるとともに、職場全体の雰囲気づくりを進めていく。	B	・学校安全衛生委員会で検討したり、各自の業務記録のを示したりして改善への意識化を図った。仕事の優先順位や段取りを工夫したりして長時間勤務にならないように実行する職員が増えてきたことで、職場全体の雰囲気が高まってきた。しかし、取り組みには個人差があるので、具体的な取り組みを示し各自の意識を高め実行力を高める必要がある。	A	・実際がどうなのかはわかりませんが、大切な項目で、先生方の健康のためにも実行していただきたいこと、「A」と評価したいことと考えた。	徳永

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○地域・保護者との連携	○PTAとの連携による行事や教育活動の円滑な実施 ○地域人材を活用し、地域の特色を生かした教育活動や体験的活動の推進	○保護者の情報交換会や座談会への参加者50%以上 ○地域人材、施設、文化財等を活用した体験活動への取り組みに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者90%以上。	・学級懇談やPTA活動の教育講演会などの機会に、スマートフォン等の使用状況や弊害、また、学力・学習の現状について教師と保護者、保護者同士の情報交換の機会や座談会を行う。また、諸中や諸南小と合同でスマホの適正利用について共通理解し、具現化に向けて取り組んでいる。 ・教育課程の中に人材活用や体験学習を位置づけ、総合的な学習の時間や各教科の時間において地域人材、施設、文化財を計画的に活用する。	B	・12月に児童の学習や生活面、SNSとの付き合い方についての座談会を開催する予定。 ・ゲームやスマホが起因となる問題については担任や保護者から通信などを通して適宜情報提供をしている。また、諸中や諸南小と合同でスマホの適正利用について共通理解し、具現化に向けて取り組んでいる。 ・JAや地域の文化財保存会、産業振興課や町の福祉施設など総合的な学習の時間で積極的に地域人材や施設を活用している。	B	・12月の座談会では、各学年の保護者が一同に介してSNSとの付き合い方や児童との接し方、児童の友人関係について活発に意見を交わし、今後の家庭教育に生かした。家族と決めたきまりを守ってSNSを利用している児童は「とても」「だいたい」と合わせると87%であった。 ・諸中や諸南小と合同でスマホの適正利用について、きまりを作り各同のステッカーをつくって、保護者・児童に啓発した。	A	・PTA会長も、保護者の皆さんも日々多忙の中、児童の成長を思い活動されていると思います。急速なSNSの発達やコロナ下での生活など今後ますますより良き活動が重要になると思われる。 ・コロナ禍で大変だったと思う。	井上
○特別支援教育の充実	○交流学級の指示的風土作り ○地域や保護者への啓発 ○UD教育の充実	○特別支援教育関するアンケートにおいて交流学級、校内における指示的風土づくりが進んだと回答をした職員90%以上 ○特別支援学級の児童の学習の様子を保護者や地域の方が参観したり、参加したりする活動を学期に1回以上実施する。	・特別支援教育、UD教育に関して研修会を実施し、校内環境のUD化を実現する。 ・特別支援にかかわる支援会議等を充実させ、個別の支援計画・指導計画の整備を進める。 ・野菜の授業参観での販売や障害者理解の人権集会を行い、特別支援教育に対する保護者への理解を求める。	B	・夏休みにGTを招いて特別支援教育・UD教育の校内研修会を開き、職員間の共通理解を図ることができた。 ・随時ケース会議や巡回相談、専門家派遣を行い、配慮を要する児童への支援策を校内で考えたり外部より指導を受けたりした。 ・校内における支持的風土づくりに努めたと回答をした職員が93%であった。 ・特別支援学級の様子を知らせる人権教室を行い、全	A	・学校評価後期アンケート（職員）では、「子どもの良さや良い行動の共有や賞賛など、自尊感情を高めるように取り組んだ」「「個別の支援が必要な児童への支援等について知り、学級・校内における支持的風土づくりに努めた」が全職員達成であった。児童では、「けんかやいじわるをしないで、友だちと仲よくできているか」が90%達成であった。 ・中間発表に記述したケース会議・巡回相談・専門家派遣で指導を受けたことを児童の支援に生かした。	B	・特別支援学級学級に携わる先生方日々ご苦労様です。ありがとうございます。参観のたびに根気良い指導に感謝している。もっと余力をもって携わることができるように教育委員会に余裕を持った人員配置をお願いしたく、敢えてBとさせていただきました。 ・校内に掲示されている表示は良い。	江口・末次・大坪

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・研究指定を受け全職員で学力向上に取り組んだ。2年次となり、授業づくりについて職員の認識が深まるにつれ意欲も高まったことが、児童の学習意欲へとつながった。 ・人権意識・心の教育では、組織的にいじめや人権教育に取り組んだことが効果的であった。いじめについては、言葉の使い方やSNSへの指導など保護者との協力が一層重要となる。気持ちを言葉で正しく伝える力や相手の意図を正しく読み取る力をつけ、コミュニケーション力を高めることで、良好な人間関係を構築させることが必要である。 ・開かれた学校づくりは、昨年度に引き続き地域とつながる教育活動を充実させるために町内3校の協働やPTAとの連携を構築してきたことで、意識改革が図られている。来年度も継続して取り組み、充実させていく。その中で、生活習慣・食習慣についても保護者への啓発を一層進める。働き方改革の法案にのっとった取組は、学校の自助努力と合わせて、多面的な立場からの取り組みが必要である。